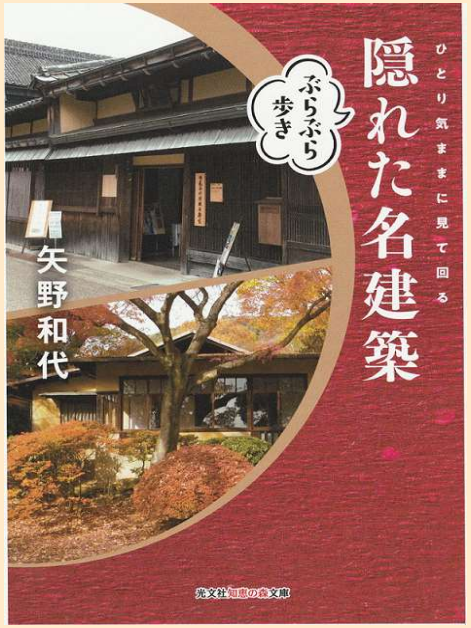
タウト塾@熱海
11月講座

コンドル・ライト・タウト設計の邸宅を巡る

講師紹介

- 矢野和代（やのかずよ）産能短大情報処理科卒、テクニカルライターとして30余年、電機メーカー等に勤務
- 20代から建築を見て歩くことに傾倒し、40代から10年かけて武蔵野美術大学芸術文化学科に学ぶ。2015年卒業、博物館学芸員資格取得
- 建築史（主に近世・近代の住宅）を研究。現地（建築本体）や資料にあたり、様式や材料、技術のみならず、施主や家族（また一族）、時代背景、移築の歴史など多面的・多角的に考察する
- これまでに国内外500棟以上の建築を見学。本年10月に光文社 知恵の森文庫より『隠れた名建築ぶらぶら歩き』を出版



熱海、タウトと私の関わり

- 明治20（1887）年～22年：東海道線の延伸と、沿線の別宅群＝大磯、国府津、小田原、熱海、御殿場、三島、沼津、興津

- 皇族・華族や政治家、政商・地主と別荘建築＝御用邸、親王ご別邸。黒田長成、前田利嗣。伊藤博文、大隈重信、山縣有朋。諸戸清六、根津嘉一郎、益田孝

- モダニズムへ至る19世紀末～モノとヒトの近代化＝ウィーン分離派：オットー・ワグナー～ウィーン工房：ヨゼフ・ホフマン、上野伊三郎・リチ夫妻

来日した外国人建築家と現存する主な作品

- ジョサイア・コンドル（英国）明治～大正
- ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（米国）明治～大正～昭和～（帰化）～戦後
- フランク・ロイド・ライト（米国）大正
- ジェイ・ヒルズ・モーガン（米国）大正～昭和
- アントニン・レーモンド（チェコ→米国）大正～昭和～戦後

ジョサイア・コンドル

・明治10年（1877）来日工部大学校造家教授・工部省営繕局顧問

・明治16年鹿鳴館、27年三菱一号館、明治29**年岩崎久彌茅町本邸**（旧岩崎邸庭園）

・大正2年（1913）三井家倶楽部、**諸戸清六邸**、3年**島津家袖ヶ崎邸**（現清泉女子大学本館）、6年古河虎之助邸（古河庭園）

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ

・明治38年（1905）滋賀県立商業学校英語科教師として来日

・40年近江ミッション創設、翌年建築設計監督事務所開業

・YMCA会館、教会、学校建築など1500以上の建築を指揮

・昭和2年（1927）旧駒井家住宅、9年旧下村正太郎邸（大丸ヴィラ）、15年旧マッケンジー邸

フランク・ロイド・ライト

・大正2年（1913）帝国ホテル新館設計のために来日

・大正6年旧林愛作邸（非公開）、12年帝国ホテル、**旧山邑邸**、昭和元年（1926）**自由学園明日館**

ジェイ・ヒルズ・モーガン

- 大正9年（1920）三菱合資会社地所部が開発する大規模ビルディングの設計技師長として来日。丸ノ内ビルディング、郵船ビルディング
- 昭和5年（1930）旧ベーリック邸（現ベーリックホール）、昭和6年自邸（焼失）

アントニン・レーモンド

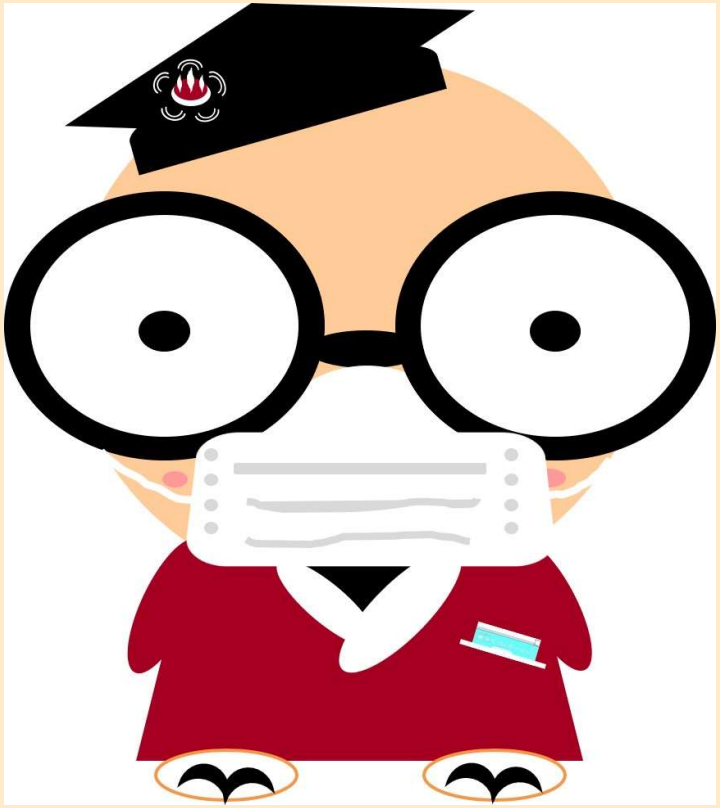
- 大正8年（1919）ライトの弟子として、帝国ホテル設計施工のため来日
- 昭和3年（1928）旧イタリア大使館日光別邸、昭和8年軽井沢夏の家（現ペイネ美術館）
- 昭和6年（1934）**東京女子大学礼拝堂・講堂・本館**

タウトが来日した昭和8年（1933）

- 前述の5人の外国人建築家によって、大学、病院、邸宅等建築の需給関係が満たされていた。
- 大正12年（1923）関東大震災後の復興住宅、例えば同潤会による鉄筋コンクリート造のアパート群は、家賃収入でのコスト回収は不可能と判断され、昭和9年江戸川アパートで終了した。
- 東京市復興小学校も、昭和3年十思小学校、昭和4年泰明小学校などRC造117校が昭和10年までに完成した。
- モダニズムを牽引した逓信建築（逓信省営繕課）、アールデコ、チューダー様式などを展開した宮家建築（宮内省内匠寮）など、役所内設計集団の存在。吉田鉄郎の東京中央郵便局、朝香宮邸の竣工年。東山荘も。

昭和8年のできごと

- 1月ヒトラーが独首相に就任、国家社会主義ドイツ労働者党（ナチ党）の政権獲得
- 2月作家小林多喜二が治安維持法違反容疑で逮捕、特別高等警察の拷問により虐殺される。国際連盟が日本軍の満州撤退勧告案を42対1で可決。松岡代表退場。
- 3月三陸地方大地震（M8.1、死者3,021名）、高島屋日本橋店開店
- 4月米国で14年ぶりに飲酒解禁
- 6月丹那トンネル貫通
- 7月『東京音頭』が発売され、爆発的ヒットとなる
- 9月伊勢丹が神田から新宿に出店
- 10月アインシュタインが米国に亡命、上高地ホテル開業
- 11月蚕糸恐慌（生糸暴落が発生し、産繭・生糸の輸出統制開始）
- 12月皇太子昭仁（昭和天皇第一皇男子）誕生、有楽町に日本劇場開場



旧日向家熱海別邸地下室の重文指定まで

- 昭和10年（1935）2月主屋竣工。昭和11年9月地下内装竣工。10月15日タウト離日。
- 昭和14年日向利兵衛死去。昭和18年転売後、個人所有に。昭和27年（1952）日本カーバイト工業株式会社が取得。
- 平成13年（2001）熱海市に売却の打診。平成15年DOCOMOMO100選に選ばれる。平成16年篤志家の寄付により熱海市が購入。平成18年7月国の重要文化財に指定される。

重要文化財（建造物）

建築物、土木構造物及びその他の工作物のうち、次の各号の一に該当し、かつ、各時代又は類型の典型となるもの

(1) 意匠的に優秀なもの
(2) 技術的に優秀なもの
(3) 歴史的価値の高いもの
(4) 学術的価値の高いもの
(5) 流派的又は地方的特色において顕著なもの

（昭和30年、昭和50年、平成8年と3次（回）改正されている）

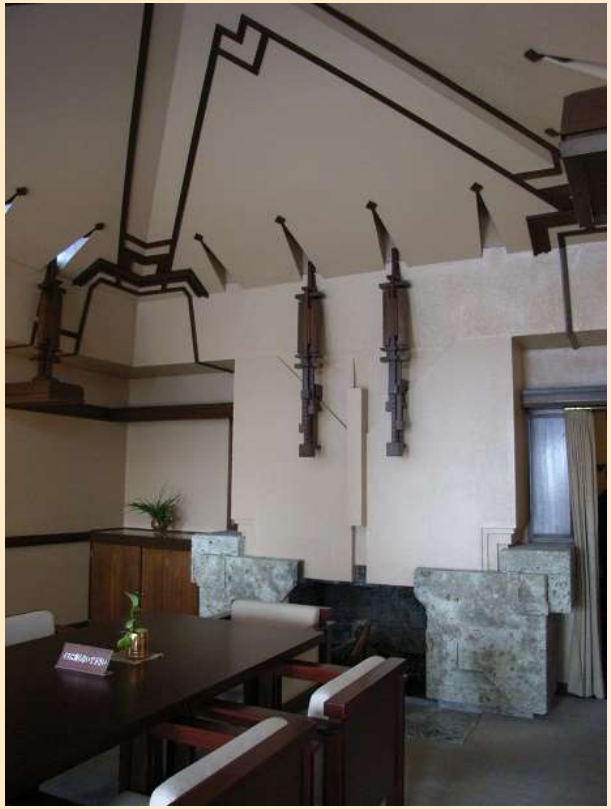
旧山邑家住宅（淀川製鋼迎賓館）

大正12年（1923）竣工。昭和49年（1974）鉄筋コンクリート造、大正期の建造物として初の指定。竣工後50年での指定は稀有。

延床面積542.43ｍ^2

傾斜地を利用して段状に建てた鉄筋コンクリート造、四階建の住宅で、フランク・ロイド・ライトの原設計になる。高低ある平面、独特の意匠などライトの作風をよく表わしており、日本近代建築史の上で重要な作品である。

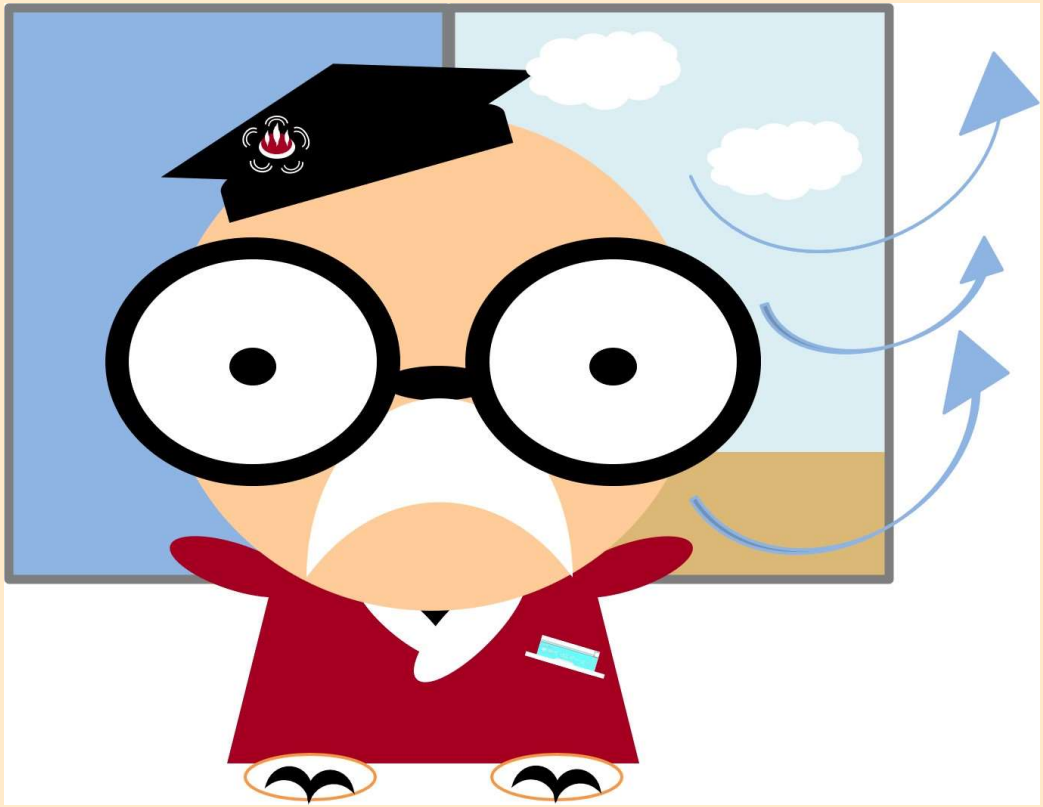
- 八代目山村太左衛門の依頼により、大正7年（1918）ライトが原設計した。ライトが帝国ホテルの完成を待たずに11年、急に帰国したため、南信と遠藤新が実施設計と施工監理にあたった。
- 昭和10年人手に渡り別荘、事務所として使われる。戦後、接収され進駐軍の社交場となる。
- 昭和22年株式会社淀川製鋼所が所有、社長宅として使用するための改造が行われた。同34年からは貸家となり、アメリカ人が居住、これに伴って部分的な改造が行われた。また、同46年から48年までは淀川製鋼所の社員寮として利用され、電気設備等の改修が行われた。その利用を廃止した翌年、重要文化財に指定された。
- その後、居住者はなく、部分的な雨漏り修理を同55年まで行ってきたが、昭和56年修理の基本となる調査工事を行い、平成元年2月、44カ月の工期、2億2,500万円をかけて基礎地盤の補強、建物西側の地盤保護、飾り石、建具飾り銅板、照明器具、カーテン及びレール等の復旧整備が行われた。



- 南北に細長い形状の南斜面地、西と南が崖地
- 1階が車寄せと玄関、2階が水屋を伴う広い応接室と倉庫、3階が西側に廊下と接する三室続きの和室＋バルコニーと、主寝室と続く婦人室及び洋間二室、4階に食堂と厨房がある。

ヨドコウ迎賓館

- 水、土・日と祝日、10時～16時開館（入館は15:30まで）
  一般500円、シニア（65歳以上）400円、小中高生200円
- 2/中旬～4/初旬に開催する雛人形展は日時指定予約・定員制。火・水・金・土・日と祝日（開館時間は同じ）
- 雛人形は、八代目山邑太左衛門が長女の誕生を祝い、京都の老舗「丸兵大木人形店」に作らせた明治年間のもの。1992年から毎年公開している。
- 貸室は、閉館日（火、金）の10時～16時、集会、講演会、貸切での家族写真撮影など、5000円/h（1部屋）～20,000円/h（全館）など利用可能（非営利の場合）。
- 管理は、(株)淀川製鋼所IR室PRグループ が窓口となっている。



旧諸戸家住宅洋館

- 大正2年（1913）竣工、山林王として知られた実業家二代目諸戸清六が23歳、新婚の住宅としてコンドルに設計を依頼した。

  延床面積：441.94m^2
- **(五)流派的又は地方的特色において顕著なもの**
- 洋館と和館がそろって残り、両者が直線上に接続する配置に特徴があり、東海西部地方において、本格的洋館を備えた代表的邸宅として貴重である。

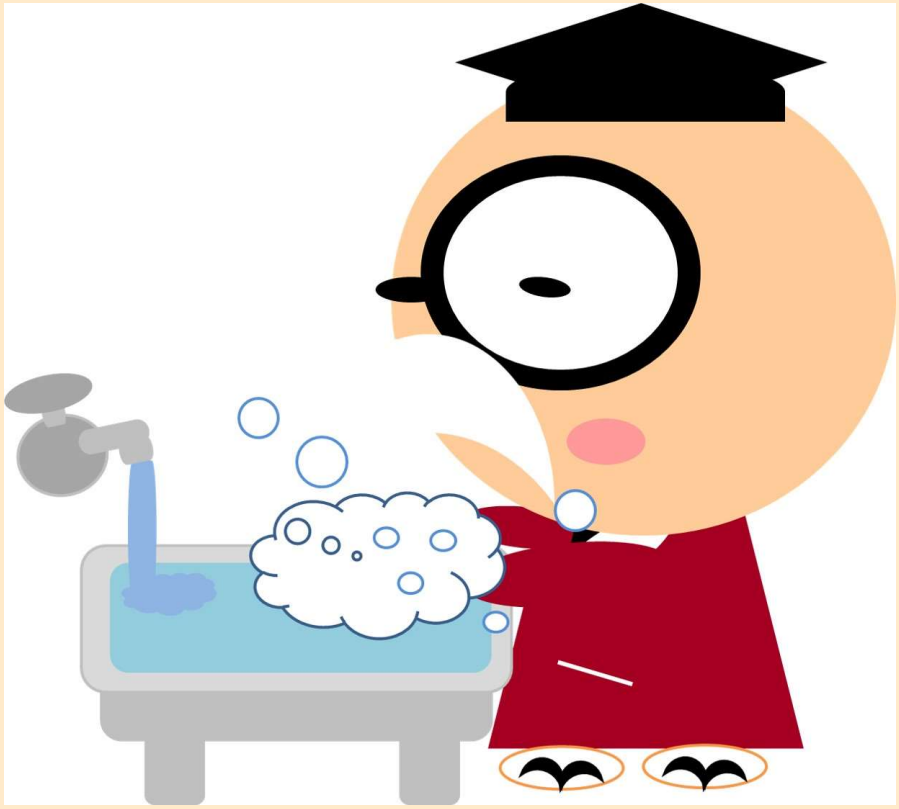
- 初代諸戸清六は、18歳と家督を継いだ時、借金が二千両（約数億円）を超えていた。これを、米の仲買業などで、わずか3年で完済し、明治維新、西南戦争の兵糧調達などで事業を拡大。後に投機的事業から脱却、不動産事業へ参入し、明治21年（1888）には酒田の本間家を抜いて田地評価額で日本一の大地主となった。
- 初代亡き後、次男清太（西諸戸家祖）と四男二代目清六（東諸戸家祖）が事業を引き継ぎ、以降、諸戸家が使用。昭和17年（1942）照明器具等供出、同20年桑名空襲により、洋館玄関車寄倒壊、外壁・ステンドグラス等破損を負う。
- 昭和44年（1969）二代目清六死去。平成3年（1991）敷地を桑名市に売却。市による修復整備工事が行われ、平成5年名称を「六華苑（旧諸戸清六邸）」と定め、一般公開。平成9年洋館・和館が国の重要文化財に指定される。平成13年庭園部分が名勝指定となる。

六華苑(旧諸戸清六邸)

- 毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）が休業日、12月29日～1月3日休業、午前9時～午後5時開苑

  一般460円、中学生150円　年間パスポート3,300円（購入特典あり）
- 桑名市が所有、株式会社18banchiが管理運営業務を受託。
- 月釜茶会、華道展を毎月開催（コロナ禍でお休み中）
- 入口脇に、Restaurant Roccaがあり、ランチ利用、ウェディング、七五三撮影、成人式撮影等に対応している。

  Ex.撮影料＋15カット＝20,000円、土日は5,000円UP（衣装レンタル、着付け、ヘアセットなども別料金で受託）



各邸の強味(Strength)

- 芦屋というブランド、駅近
- 関西圏の住民層の厚さ、母娘など世代をつないで訪問したくなる住宅
- ライトの知名度、国際性
- 雛人形展を毎年開催、30年以上続く
- 私企業所有の自由度
- 三重県、中部圏では、諸戸家は近代の名家
- 広い庭、広い和館
- コンドルが新婚夫婦に贈ったお姫様になれる洋館
- 桑名の、長年の茶の湯の文化
- 西諸戸（重要文化財）の春秋の庭園公開

旧日向家熱海別邸地下室の強味

- 国内で唯一のブルーノ・タウトの（建造物での）作品である
- ある時代、設計者の背景と、その作品を考察するために、非常に特徴的な存在である。学術的研究の場として貴重である
- 起雲閣、双柿舎、凌寒荘など、他の公開施設と合わせて、熱海の別邸建築巡りが可能である
- 日の出の熱海、月光の熱海を鑑賞するには、最高のロケーションである
- 熱海は新幹線停車駅で駅近でもあり、都会からの移住者による様々な文化の交流が期待できる舞台（器）と成り得る

タウトと上野伊三郎･リチ夫妻

- タウトへの近づき方・・上野伊三郎・リチ夫妻を知る
- 2009年京都国立近代美術館、目黒区美術館で大規模コレクション展
- ～2022年1/16京都近美、2/18-5/15三菱一号館：上野リチ　ウィーンからきたデザイン・ファンタジー
- タウトの空間に何を置くか、自作の椅子、テーブルスタンド、シガレットケース・・・1920～30年代、第一次世界大戦後のドイツ～ロシアについて考える
- 赤いウィーン（1918～34年オーストリア社会民主党が与党となり統治した時代のニックネーム）→exカール・マルクス・ホーフ

重要文化財を育てる

- 重要文化財指定がゴールではなく、スタート。
- 〔旅人〕この建築のここが好きは、人それぞれ。静けさに心を癒したり、インパクトの強いインテリアに高揚感を覚える人もいる。**←自分自身、過去とのつながり**　また住宅は、日常への応用にもなるというお得感もある。それを大切に持ち帰ってもらい、リピートしてもらう。ファンを増やしていく。
- 〔住人〕通りすがりの人が、ここが好きという人になり、自分育てと建築育ての両方を、ここで叶える。
- やがて建築は、市の財産から、個々の市民の、自分の時間を費やした、かけがえのないものとなる。それが、生きている重要文化財。

質問コーナー

- 桂離宮以外に、日本にあるタウトゆかりの建築は？
  →修学院離宮、伊勢神宮、日光東照宮、飛騨白川郷、聴竹居（京都大山崎）
- 主屋を設計した渡辺仁の他の作品は？
  →ホテルニューグランド（横浜）、徳川義親邸（八ヶ岳）、服部時計店（銀座）、日本劇場
- 眺望を活かした別邸建築の例は？
  →臥龍山荘（愛媛）、前田侯爵家鎌倉別邸
- インテリアに特化した部屋を持つ建築は他にあるの？
  →旧朝香宮邸（目黒）、氷川丸（横浜）

• 掲載した写真は講師が撮影し、所有者に掲載の許可を得たものです。
• 当コンテンツの内容、写真等の無断転載を禁止します。
ⓒ矢野和代